

第1章 九州農業の主要指標の動き

1 農業経営の動向

(1) 農業産出額

平成25年の農業産出額は1兆6,731億円で、肉用牛、豚及び鶏の価格が上昇し、前年に比べ130億円(0.8%)わずかに増加しました。

部門別では、畜産が6,926億円で全体の41.4%を占め、次いで野菜が4,327億円、米1,955億円、果実1,262億円となっています。

また、地域別の特徴としては、南部の宮崎県、鹿児島県は畜産のウエイトが高く、北部の福岡県、熊本県等では野菜のウエイトが高くなっています。

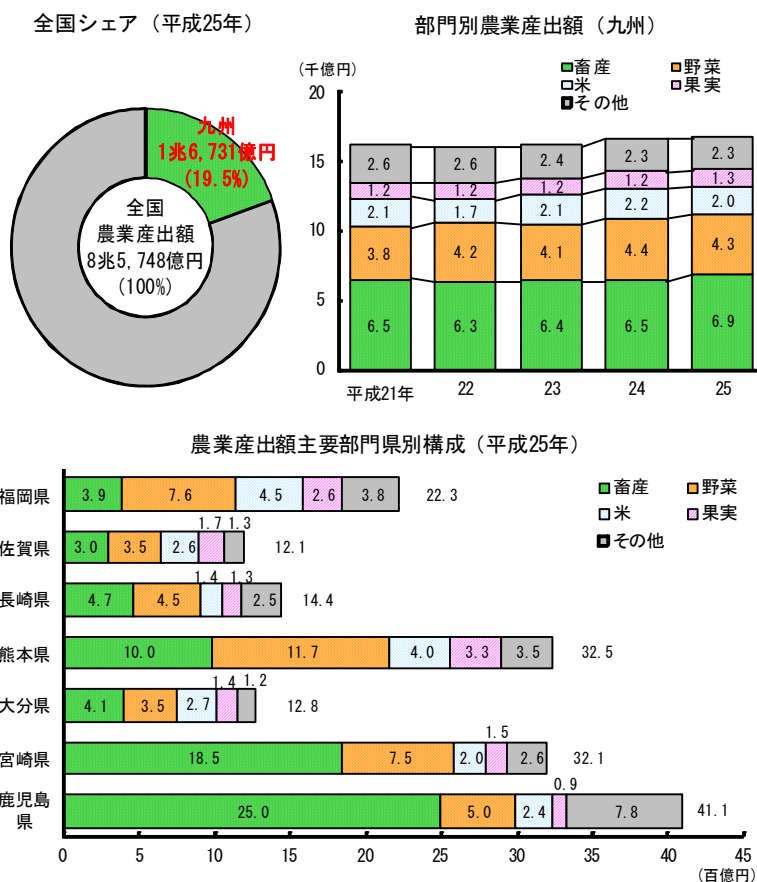
県別の農業産出額では、鹿児島県4,109億円(全国4位)、熊本県3,250億円(同5位)、宮崎県3,213億円(同6位)が上位3県となっています。

(2) 農業経営収支(個別経営1経営体当たり)

25年の水田作経営における農業粗収益は257万1千円で、米価格の低下に伴い稲作収入が減少したことから、前年に比べ1.4%低下しました。

一方、農業経営費は199万1千円で、農機具及び農用建物の減価償却費が減

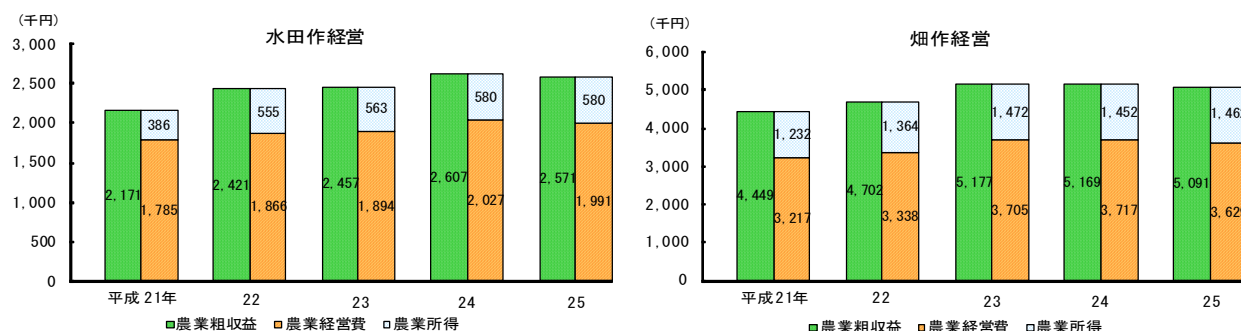
図1-1 農業産出額の動き



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：数値は四捨五入により、計と内訳は一致しないことがある。

図1-2 1経営体当たり経営収支



資料：農林水産省「営農類型別経営統計(個別経営)」

少したことにより前年に比べ1.8%減少しましたが、農業所得は前年並みの58万円となりました。

畑作経営における農業粗収益は509万1千円で、かんしょ収穫量の増加によりいも類の収益が増加したものの、低温や凍霜害によって茶の収穫量が減少したことにより工芸農作物の収入が減少し、前年に比べ1.5%減少しました。

一方、農業経営費は362万9千円で、農業生産資材の価格が上昇した反面、農業機械及び農用建物の減価償却費の減少により、前年に比べ2.4%減少しました。この結果、農業所得は146万2千円と前年に比べ0.7%増加となりました。

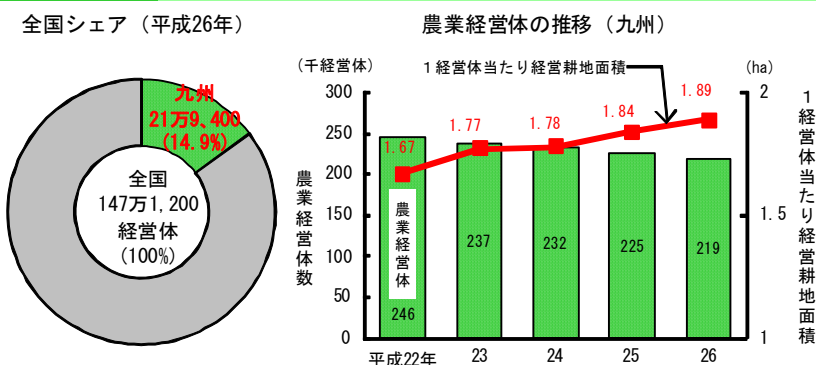
(3) 農業経営体等

ア 農業経営体数（平成26年2月1日現在）

農業経営体数は21万9,400経営体で、前年に比べ約5,900経営体（2.6%）減少しました。これは、家族経営体の減少によるものです。

一方、1経営体当たりの経営耕地面積は1.89haとなり、前年に比べ2.7%増加しました。

図1-3 農業経営体の動き



資料：平成22年は農林水産省「2010年世界農林業センサス」、それ以外は農林水産省「農業構造動態調査」

イ 集落営農数（平成27年2月1日現在）

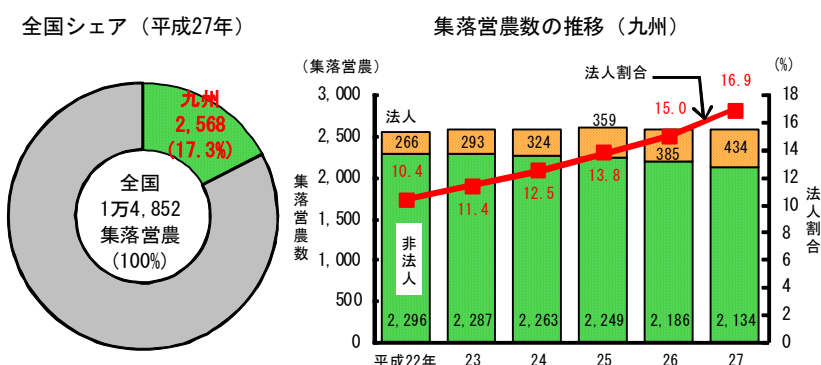
集落営農数は2,568で、前年に比べ3（0.1%）減少しました。

このうち、法人の集落営農数は434となり前年に比べ49（12.7%）増加しました。

管内の集落営農数は、福岡県（618）、佐賀県（605）、大分県（549）

の順で多く、法人の集落営農数については、福岡及び大分県の上位2県で九州地域の79.3%を占めています。

図1-4 集落営農数の動き



資料：農林水産省「集落営農実態調査」

注：平成27年結果は概数値であり、確定値は今後発刊する「平成27年集落営農実態調査報告書」に掲載予定。

2 農畜産物の動向

(1) 水稻の生産状況

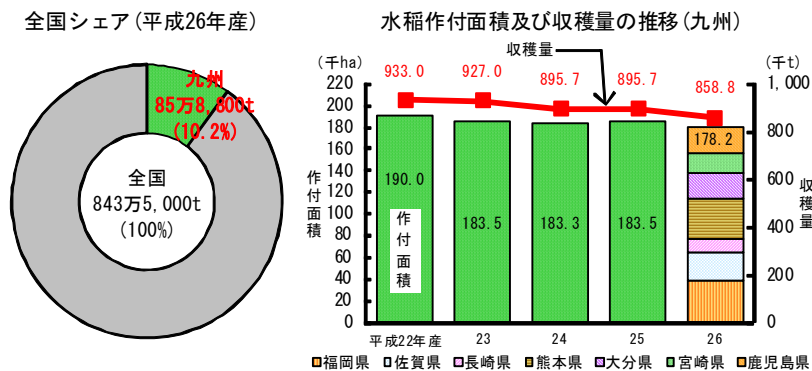
平成26年産水稻の作付面積（子実用）は17万8,200haで、作柄は、日照不足により全もみ数がやや少なくなったことに加え、いもち病等の病虫害の被害が見られ、10a当たり収量は482kg（作況指数96）となり、収穫量（子実用）は85万8,800tとなりました。

なお、宮崎県及び鹿児島県で栽培されている早期栽培水稻については、登熟が「平年並み」ないし「やや良」であったことから、10a当たり収量は宮崎県で488kg（作況指数102）、鹿児島県で455kg（同103）となりました。

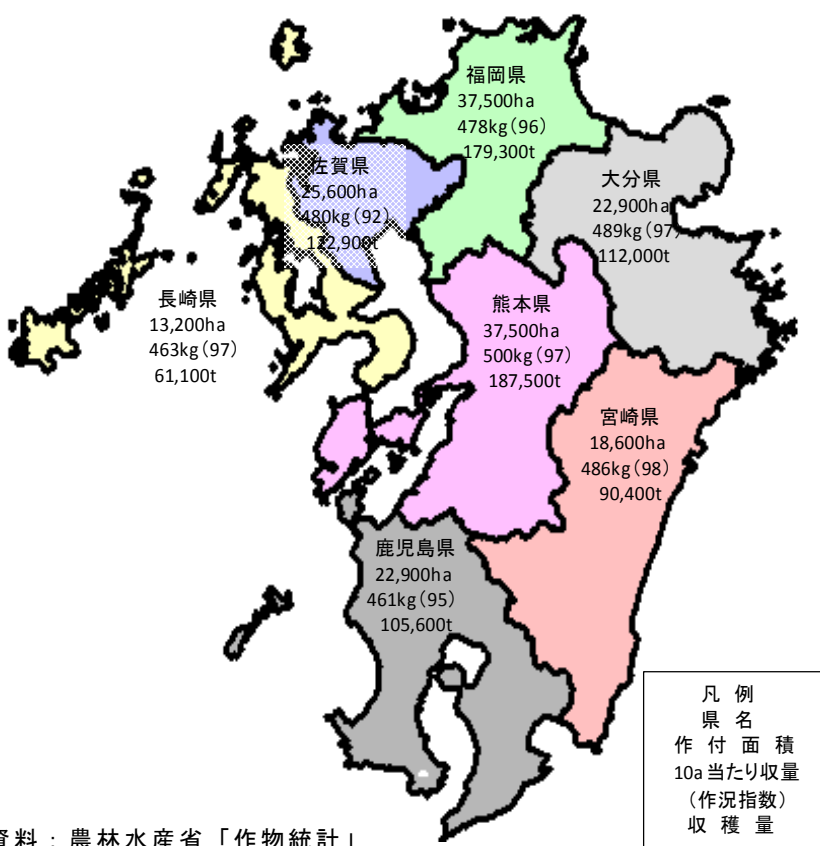
(2) 麦の生産状況

26年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の生産状況は、福岡県及び佐賀県を中心に5万5,200ha（全国シェア20.2%）の作付けがあり、基盤整備による不作付け等からの転換等により前年産に比べ900ha（1.7%）増加しました。

図1-5 水稻収穫量等の動き

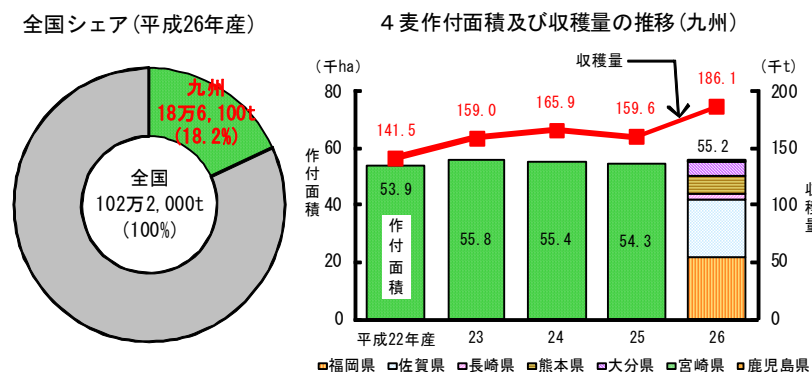


管内県別作付面積及び収穫量



資料：農林水産省「作物統計」

図1-6 4麦収穫量等の動き



資料：農林水産省「作物統計」

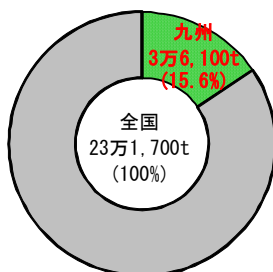
収穫量は、作付面積が増加したこと及び天候に恵まれ生育が概ね良好で10 a 当たり収量が増加したことにより、18万6,100 t（全国シェア18.2%）と前年産に比べ2万6,500 t（16.6%）増加しました。

（３）大豆の生産状況

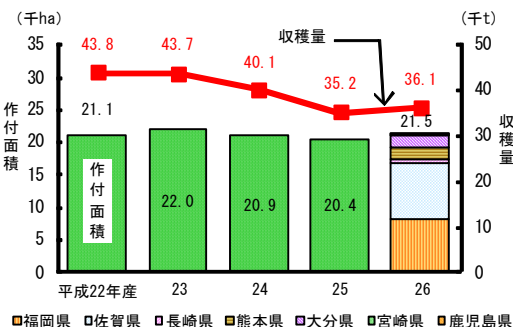
26年産大豆（乾燥子実）の生産状況については、作付面積が2万1,500ha（全国シェア15.6%）で、主食用米からの転換等により前年産に比べ1,100 ha（5.4%）増加しました。

図1-7 大豆収穫量等の動き

全国シェア（平成26年産）



大豆作付面積及び収穫量の推移（九州）



資料：農林水産省「作物統計」

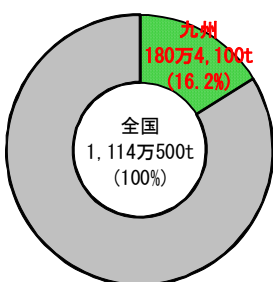
収穫量は、日照不足等から生育が遅れ、着さや数の減少、粒の肥大の抑制が生じたものの、作付面積が増加したことにより、3万6,100 t（全国シェア15.6%）と前年に比べ900t（2.6%）増加しました。

（４）野菜の生産状況（指定野菜14品目）

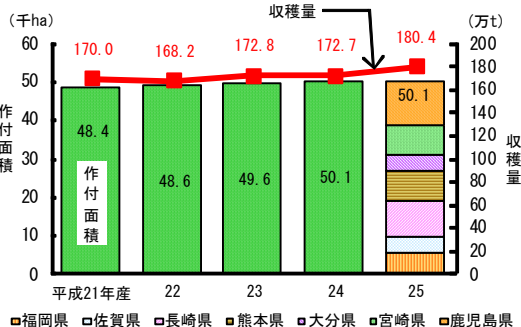
25年産指定野菜の生産状況については、作付面積が5万100ha（全国シェア15.4%）、収穫量は180万4,100 t（同16.2%）となっています。

図1-8 指定野菜（14品目）収穫量等の動き

全国シェア（平成25年産）



指定野菜作付面積及び収穫量の推移（九州）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

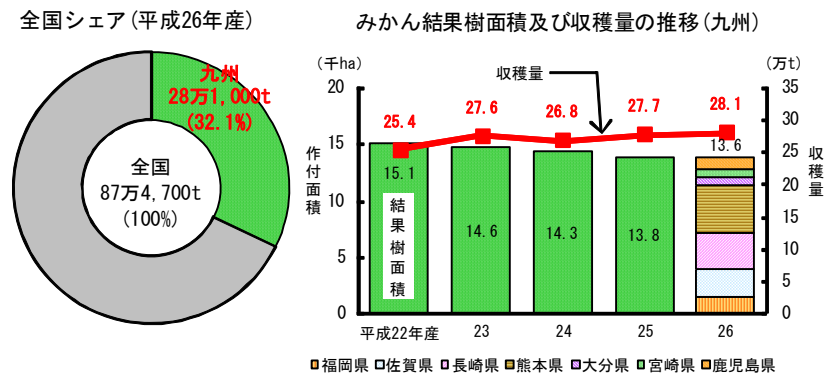
九州で収穫量の全国シェアが高い品目は、ピーマン5万400 t（全国シェア34.7%）、トマト19万3,000 t（同25.8%）、さといも4万1,400 t（同25.5%）、だいこん32万3,500 t（同22.2%）等となっています。

（５）果樹の栽培状況

26年産果樹の栽培状況については、みかん、その他かんきつ類、くり及びかき等の品目が多く栽培されています。

栽培が特に多いみかんの平成26年産の作柄は、廃園や改植等により、結果樹面積は1万3,600ha（全国シェア31.7%）と前年産に比べ200ha（1.5%）減少したものの、果実の肥大が良好であったことから、収穫量は28万1,000t、前年産に比べ4,100t（1.5%）増加しました。

図 1-9 みかん収穫量等の動き



(6) 畜産の飼養状況（26年2月1日現在）

ア 乳用牛

乳用牛の飼養戸数は、1,810戸で前年に比べ70戸（3.6%）減少し、飼養頭数は11万7,900頭（全国シェア8.5%）で前年に比べ2,200頭（1.8%）減少しました。

一方、一戸当たりの飼養頭数は、65頭となり前年に比べ1頭（1.6%）増加しました。

図 1-10 乳用牛飼養頭数等の動き

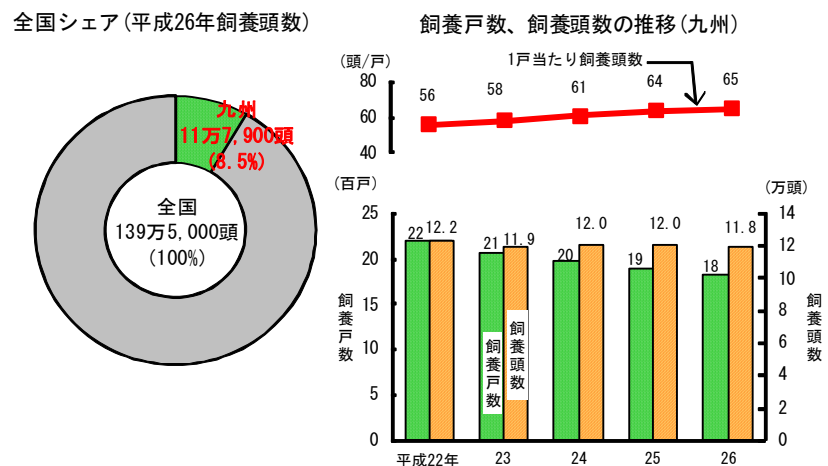
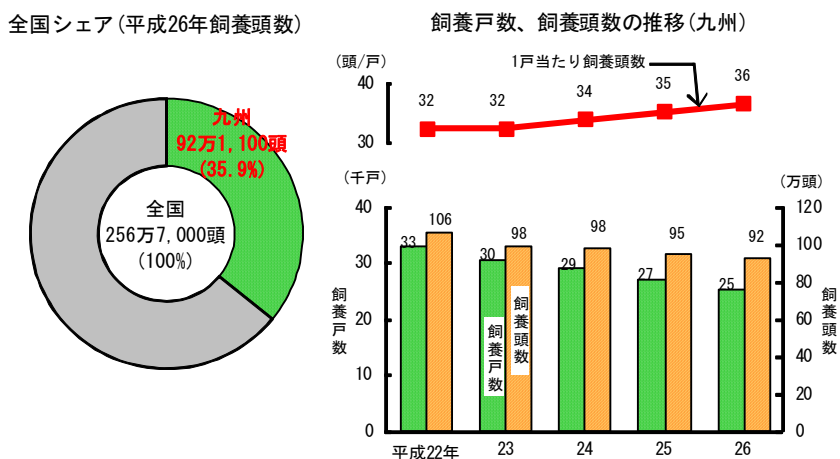


図 1-11 肉用牛飼養頭数等の動き

イ 肉用牛

肉用牛の飼養戸数は、2万5,200戸で前年に比べ1,700戸（6.3%）減少し、飼養頭数は92万1,100頭（全国シェア35.9%）で、前年に比べ2万5,400頭（2.7%）減少しました。



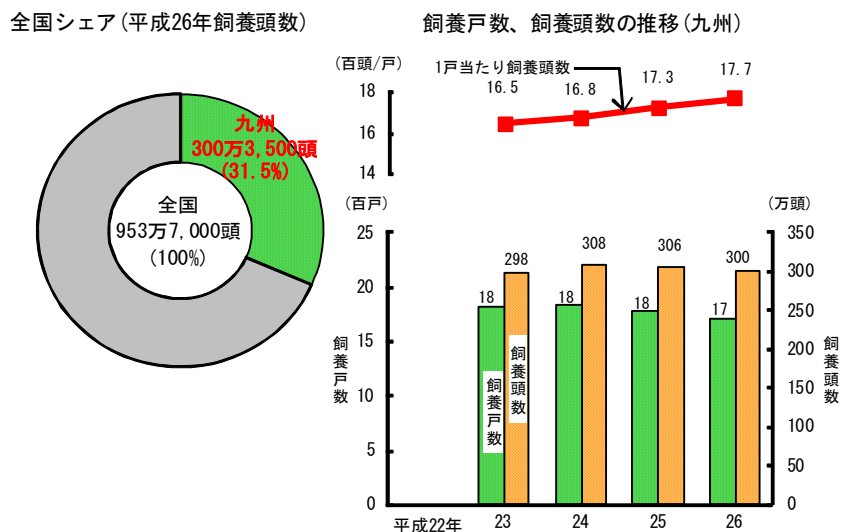
一方、一戸当たりの飼養頭数は、36頭となり前年に比べ1頭（2.9％）増加しました。

ウ 豚※

豚の飼養戸数は、1,700戸で前年に比べ70戸（4.0％）減少し、飼養頭数は300万3,500頭（全国シェア31.5％）で前年に比べ5万2,500頭（1.7％）減少しました。

一方、一戸当たりの飼養頭数は、1,767頭となり前年に比べ40頭（2.3％）増加しました。

図 1-12 豚飼養頭数等の動き



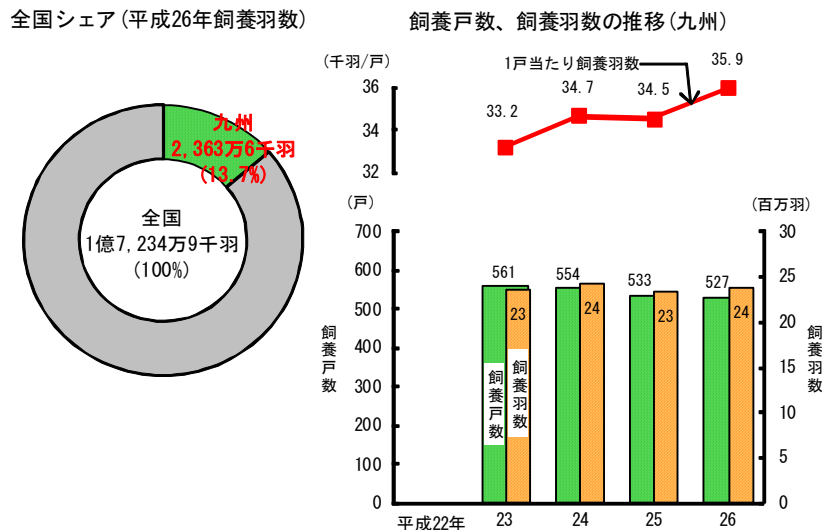
資料：農林水産省「畜産統計」

エ 採卵鶏※（種鶏除く）

採卵鶏の飼養戸数は、527戸で前年に比べ6戸（1.1％）減少し、飼養羽数は2,363万6千羽（全国シェア13.7％）と前年に比べ42万羽（1.8％）増加しました。

一方、一戸当たり成鶏めす飼養羽数は、3万5,926羽となり、前年に比べ1,408羽（4.1％）増加しました。

図 1-13 採卵鶏飼養羽数等の動き



資料：農林水産省「畜産統計」

※ 図 1-12 及び 13 の豚及び採卵鶏の平成22年については、センサス年のため調査を実施していない。